

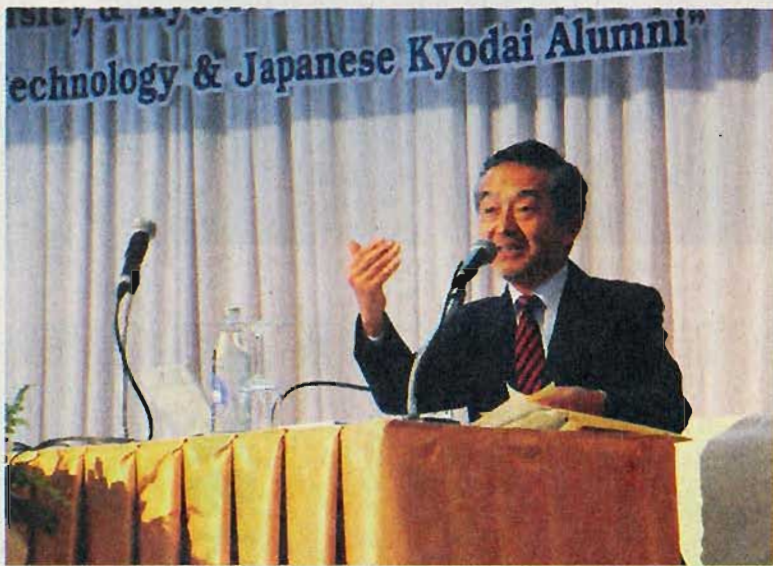
京都大学 東南アジアフォーラム開催

地域ニーズに適した研究を目指す

京都大学と京都ユニオンクラブの主催で「食糧とエネルギーの世界的危機——日本とタイでの見通し」と題する第3回京都大学東南アジアフォーラムが1月17日に開催された。

同フォーラムはタイ国内への知的還元を主目的としているため、一般公開している。この機会を通して新規性のあるアイデアが生まれ、タイや東南アジアでの活発な議論に発展することを期待していることだ。

同フォーラムについては、タイ国内の研究・教育機関へのポスター配布などで告知された。また、タイ人の京大同窓会である京都ユニオンクラブの会長を務めるウィユット氏がラジオ番組の電話インタビューを受け、ピーアールした。タイにおいても京大の



講演をする京大名誉教授の辻井博氏

知名度は高く、泰日工業大学やチュラロンコン大学などの現役学生も参加した。

当日、日本から訪れた同大学の辻井博名誉教授が「食糧危機、タイと日本

の役割」をテーマに、

究が社会にどのような役に立っているのかをタイ国内でも広く理解していただくたい」と話した。また、同大学東南アジア研究所の水野広祐所長は「これまで当大学では他の研究部門との交流が少なく、それぞれ別々に東南アジアを研究することが多かった。しかし、他の研究部門と交流を持つことで、エネルギー、農業などの幅広い問題をより地域のニーズに適した形で共同研究できるようになる。このような機会を持つためにも同フォーラムを開催している」と語った。

同窓会も同時開催

同大学ではフォーラム後に同窓会を開き、在タイの日本人卒業生やタイ人卒業生らが交流を深めた。

昨年9月にタイに赴任したばかりの在タイ日本国大使館の小町恭士大使も出席し、「タイには日本人同窓生とタイ人同窓生がこれほどたくさんい

ることを目の当りに見て、できる範囲でさらにタイを盛り立てていきたいと思った。それぞれの大学が特色を生かして海外で発展していくことが重要で、タイの方々と一緒に協力していくことは、日本の持っている力を十分発揮する良い機会になるだろう」と語った。また、在タイ日本人同

窓会の会長を務める泰國三井物産の山本明夫社長も「京大生の特徴として、あまり群れをなさない性格があるため、同窓会を継続するのは大変。同窓会の最大目標は今後も継続するということ。皆をまとめるのが難しい大学だが、次回はさらに参加者を増やすようにしたい」と意気込みを見せた。



フォーラムに関する連絡先：小林さん (bangkok@cseas.kyoto-u.ac.jp)
同窓会に関する連絡先：龍瀬さん (cplzz@baf.co.th)